

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2018年

ホームページへGo!→  
スマホで教室だよりが見られます



教室だより9月号

### 子どもの様子を見直してみよう

いよいよ2学期が始まります。準備は整われましたでしょうか。

9月は長期休暇が終わり、生活のリズムが戻らず、子どもたちなりに疲労感を覚える時期でもあります。

公文の学習は、今自分が持っているパフォーマンスをフルに発揮して、例題を手がかりに、未知の問題に挑み、反復練習によって解答へのアプローチに馴染みながら、だんだん手際よくできるようになっていく。

このプロセスを積み重ねていくことで「できる」レベルを高めてゆき、本物の学力を身につけるというメソッドです。それだけに、お子さまの現在の心身両面のコンディションや学習課題の定着度合（いわゆる「ちょうど」のレベル）を見極めながら、お子さまがフルパフォーマンスを発揮できる環境を作ってあげる、チャレンジする意欲、前向きな気持ちを引き出してあげることが重要です。

子どもには家庭でしか見せない表情があります。また、逆に外でしか見せない姿もあると思います。

ご家庭でのお子さまの様子をぜひお聞かせください。また、ご遠慮なく、ご相談ください。

私たち公文式教室のスタッフも、お子さまの成長を見守り、バックアップさせていただくサポーターのひとりでありたいと願っております。

### 公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“幼児期は器づくり。「たくさんの読み聞かせ」で能力の基盤づくりを”

文字を読めない子どもばかりでなく、文字を読める子どもにとっても、本を読んでもらうことは最大の楽しみの一つです。子どもが「読んで」と絵本を持ってきたら、「忙しいからあとで」、「自分で読めるでしょう」などと言わずに、読んでほしいという子どもの気持ちに応えてあげましょう。子どもは、多くの本を読んでもらって物語の楽しさを知る中から、豊かな言葉と思考力を身につけていくでしょう。たくさんの本を読み聞かせてもらった子どもたちは、あふれるような知識と言葉を頭の中にたくわえていきます。水がめにためられた水がいつぱいになって、とうとうあふれ出すように、子どもたちの内にたくわえられた言葉は、ある日ついにあふれ出て外に表れ、能力を見事に花開かせることになるのです。言葉は一度身につけたら、生涯の力になります。文字が読め、内容が理解できることは、学校での勉強だけでなく、社会に出てからも考える力、生きる力の基盤になります。

### 2018年9月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 祝日	18	19	20	21	22
23 祝日	24 祝日	25	26	27	28	29
30						

本市場教室日□

横割教室日△

#### 保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

8月分の会費引き落としは8月28日（火）です。よろしく願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

\*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

横割教室は24日（月）は祝日ですが学習日とします。公文はあります。

## \*ゆき子の一言コラム

算数・数学はそのほとんどが計算を伴うものです

「公文式の算数・数学は計算だけです」と言われる方が時々いらっしゃるように、数学力をつけるためには計算以外の「何か」が必要だと思われる方が多いようです。「計算」の占める割合は高校数学になれば90%以上でも、中学校の数学や小学校の算数では半分程度だと言われるからです。でも、そんな小学校の算数にしても、“計算以外”として取り扱われている残りの半分を見れば「長さ」「かさ」「重さ」「面積」「割合」「単位」「速さ」「比例」「平均」「体積」「計量」など行き着くところは“計算”という単元が非常に多く含まれています。

小中高を通じて、算数・数学は、そのほとんどが計算を伴うものだと思って間違いのないのです。

漢字や言葉なら、3年生の教科書に載っているものがわからなくても4年生の教科書に載っているものがわかる、ということがあっても不思議ではありません。ところが、計算は違います。「足し算ができなくても引き算はできる」「掛け算ができなくても割り算はできる」というようなことが通常では起こりません。ひとつ前の段階ができなければ、つぎの段階はできない。逆に言えば、ひとつ前の段階ができればつぎの段階もできるということです。

地道に練習を積み重ねることさえできれば、早い遅いの違いはあっても、だれもが上達を保証されるのです。

公文式で算数・数学を学習することにより、ひとりでも多くの子どもに「強い数学力」を獲得してもらいたいと思います。それと同時にしっかりした学習習慣をつけてもらいたいと思います。

「聞く」「言う」「読む」「書く」の4つの力をトータルにつけてそこ語学力！

公文式英語の最も大きな特長は、「聞く力」「読む力」「話す(言う)力」「書く力」が4つ揃って確実に身につく点です。勉強はもちろん楽しくやるに越したことはありませんが、楽しいだけで結局、読めるようにも書けるようにもならなかったというのでは困ります。

公文式英語は、「あくまでも高く」をめざします。社会人になる準備を始める頃に、英検ならば1級か準1級、TOEICスコアならば800点以上。小学生のうち始めておけば、それは決して夢ではありません。どの子にも、「あくまでも高く」をめざして、一生の財産となる“高い英語力”を獲得してほしいと思います。

たとえばもう夏休みが終わってしましますが、公文式英語学習を始める場合、小学校卒業時に何級合格を勝ち取るのでしょうか。

小6で始めたら5級にあと一歩くらいのところまで行けるでしょうか。

小5で始めたなら4級に手が届きそうなどころまで行けるでしょうか。

小4で始めたら3級を勝ち取るまで行っても不思議はありません。

「より早い時期に、より上の級に合格しておくこと」それは、高校や大学を卒業する時に合格できる英検級を引き上げ、ひいては獲得できるTOEICスコアやTOEICスコアを引き上げることに、確実に結びつくものと信じます。

目標は、読解力(読書能力)の養成です。

公文式国語の最も大きな特長は、ひとつの課題文の中で、「文字」「文型」「文脈(読解)」の3つをバランスよく学べるように組み立てられている点です。文字を学び、言葉を学び、文型を学び、文脈を学ぶ。最終的に求められる「長文読解力」を効率よく高められる公文式国語。これを学習することにより、取りやすそうでも最も取りにくい(よい時とわるい時の差が大きい)国語の点数は、いつもよい状態で安定するようになるはず。公文式国語を心からお勧めいたします。

日常使っているのが日本語だから「国語は安心」と思いがちですが、日本語と国語はまったく別物です。

国語は国語として時間をかけて学習し、しっかり練習を積み重ねるべき教科であり、その力は「蓄積」によって育まれます。10年かけて育まれる蓄積を2年や3年で取り戻すのは非常に困難なのです。

高い国語力を育むためには、幼い頃からの蓄積こそが必要なのです。

## \*教室での決まりごと。

①はきものはきちんとそろえよう！ ②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！ ③もちものには なまえをかきましよう！④でんわをかりたら かならず でんわ代10えん いれてください！